

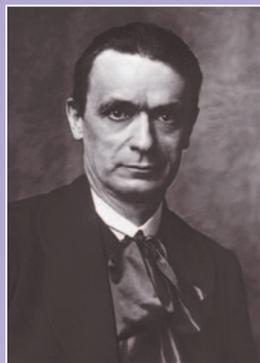
Rudolf Steiner:

“Esoterische Betrachtungen  
karmischer Zusammenhänge”, Band V, GA 239

## Karma als Schicksalsgestaltung des menschlichen Lebens

1924年6月の聖霊降臨祭の時期に、ブレスラウで行われた「9回のカルマ論講演」、そしてオイリュトミー公演は、近郊のコーベルヴィッツで催された「農業講座」とともに、すべてが一体となり、アントロポゾフィーの「祝祭」として構成されている。

新刊書 2024年4月6日発行  
A5版フランス装 本文224頁  
ISBN978-4-903865-57-7  
定価3300円（本体価格3000円＋税）



ルドルフ・シュタイナー Rudolf Steiner, 1861-1925

最晩年1924年の活動は、81回にも及び講演「カルマの関連の秘教的考察」に止まらず、全焼したゲーテアヌムの再建にも取り組み、音楽オイリュトミーのための講座をはじめ、治療教育講座、言語オイリュトミー講座、農業講座、さらに労働者のための講座も続けている。またキリスト者共同体の創設や、ヴェレーダなど医薬品の開発にも力を注いだ。本書はドイツ語全集版（第5巻 GA 239）に収められたブレスラウ講演の全訳。

訳者 浅田 豊 Yutaka Asada

オイリュトミスト、人智学研究者。スイス在住、ゲーテアヌム書店に勤務。シュタイナーの思想、社会論を研究。訳書に、シュタイナー著『二つのメモランダム（覚書き）』『個人と人類を導く霊のはたらき』『ゲーテ的世界観の認識論要綱』『アントロポゾフィー医学の本質』（共訳）など。現在、ルドルフ・シュタイナー講演集「カルマ論関連の秘教的考察」を翻訳中。既刊書として『アントロポゾフィー運動と現代の霊的生活』『アントロポゾフィーのカルマ的関連』がある。年に2度ほど来日、各地で講座を行っている。学芸研究室の広報誌「Stella」に「ルドルフ・シュタイナーとその時代」を掲載中。

ルドルフ・シュタイナー講演集

[カルマ的関連の秘教的考察]



ルドルフ・シュタイナー

# 人間生活の 運命を形成するカルマ

ブレスラウにおける9回の講演（1924.6.7-15）

浅田 豊 訳・解説

人間本性の深い衝動の中には、以前の地上性にあったものが、別の形をとって再び蘇生してくるのです。

もし人がカルマの作用というような事柄に、真剣に向かつていこうとするときには、すでに地上の体験を魂的・霊的に、通常行われているよりも、もっと内的に繊細に形成する必要があるのです。

\*

霊的・魂的な存在としての人間が地上の生活に下りてきて、物質体を地上における自らの活動の道具として受け取り、・・・地上で働くことができるために、自らをいわば物質体に変容させる瞬間。

それは地上の生活の始まり、つまり誕生と受胎です。

もう一つの瞬間は、人間が死の扉を越えて霊的な世界に帰っていくことによって、人間が地上の生活から抜け出していく瞬間です。

・・・人間の生活にはこの二つの異なる「瞬間」が働き込んでくるのです。

\*

お前自身を認識しようと思ったら、宇宙の広がりの中に目を向けよ。

宇宙の広がりを見抜きたければ、お前自身の中に目を向けよ。

（本文より）

### ●目次：講演の概略

#### 訳者による序文

- 講演1 死の瞬間と誕生の瞬間／人間の思考生活／人生の運命的な計画／人類の原教師たち、等
- 講演2（聖霊降臨祭の日曜日）月の領域と水星の領域／金星の領域と太陽の領域／惑星領域の秘密、等
- 講演3 私の心臓は私の太陽／霊界と物質世界の仲介者／ゲーテとエリファス・レヴィ、等
- 講演4 土星領域の動き／秘儀参入者たちの転生／ヒベルニアの秘儀とヴィクトル・ユエーゴ、等
- 講演5 カルマを予感する感情と人間の出会い／同時代人のカルマ／霊においてはすべてが個体的、等
- 講演6 感覚印象と感情、意志／記憶／自己愛と無私の愛／イスラーム教の抽象性とムアーウィア、等
- 講演7 影のような記憶／人生に対する感謝の気持ち／体験をイマギナティオンに変容する、等
- 講演8 入眠と覚醒の状況／カルマから見た睡眠の意義、病氣と死、治療の観点、等
- 講演9 人間の道徳的な行為の成果／過去のカルマと将来のカルマ／東洋人の見方、等

#### 訳者による解説

コーベルヴィッツ、ブレスラウにおけるアントロポゾフィーの祝祭